

森鷗外 芥川龍之介 田山花袋 正岡子規 谷崎潤一郎 太宰 長 宰塚 夏井伏鱒二 治節 目漱石 室生犀星

特別展示

文豪の筆跡

— 館蔵の名品から —

2023年
5月1日[月]—6月11日[日]

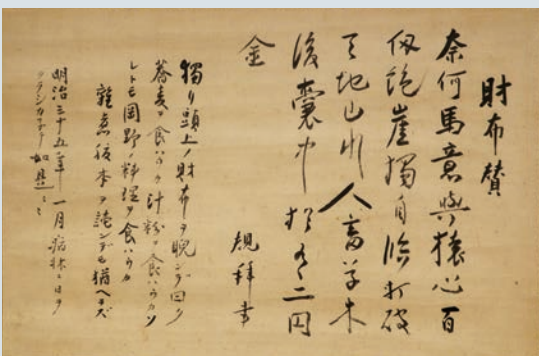
特別展示 文豪の筆跡

館蔵の名品から

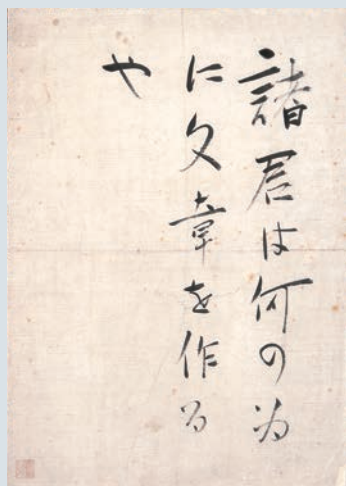
書は人なり―書かれた文字には、その人の性格や人柄があらわれるといえます。

森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、芥川龍之介、太宰治など、文学史にその名を残した文豪はどんな文字を書いていたのでしょうか。

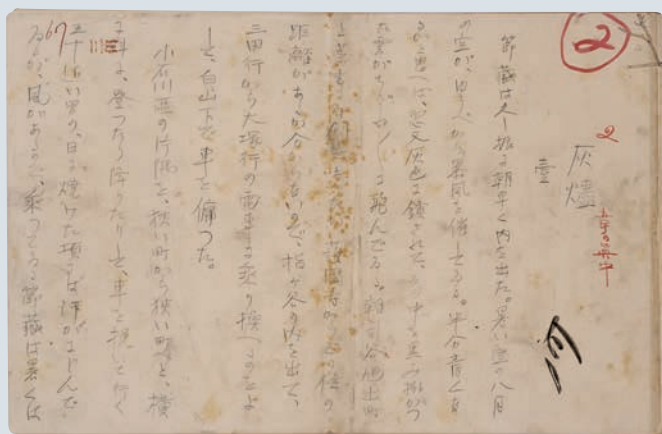
原稿や手紙など直筆の資料から、個性あふれる筆跡の魅力を鑑みたくとも、資料にひそむドラマチックな背景を紹介します。



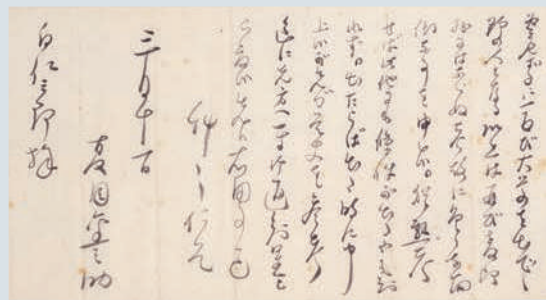
正岡子規「財布賛」軸装 1902(明治35)年1月 寄託資料
歌人の岡麓にもらった二門入りの財布に寄せて、『碧巖録』の偈文を模して創作した「財布賛」。この書は子規の歿後、門下の長塚節の手元に渡りその後、当時山梨在住の新井一五坊のもとに保存された。



芥川龍之介「諸君は何の為に文章を作るや」書

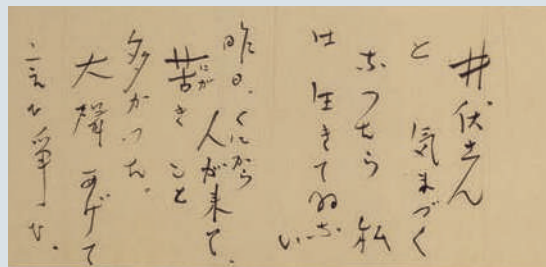


森鷗外「灰燼」第1回原稿 「三田文学」第2巻第10号1911(明治44)年10月掲載



夏目漱石 白仁三郎(坂元雪鳥)宛書簡
1907(明治40)年3月11日

東京朝日新聞社に入社し専属作家になるにあたって、同社員の白仁宛に様々な条件・要望を伝えた書簡。白仁は、坂元雪鳥の名で能楽評論家としても活躍。



太宰治 井伏鱒二宛書簡 1936(昭和11)年9月15日消印

太宰はこの年2月、バビナール中毒のため10日間入院。6月には第1創作集『晩年』を刊行し、第3回芥川賞を熱望していたが受賞が果たせなかった。

関連事業入場無料

◎講演会「文学資料をどう読み解くか ― 毛筆・ペン・鉛筆の間」
講師：中島国彦(早稲田大学名誉教授・日本近代文学館理事長)
日時：5月5日(金・祝日) 13:30～15:00
会場：講堂(定員150名)
* 電話またはホームページ、イベント欄の申し込みフォームからお申し込みください。

◎講座「資料から読む作家の交友」
講師：高室有子(当館学芸員)
日時：6月4日(日) 14:00～
会場：研修室(定員40名)
* 電話でお申し込みください。

常設展とあわせてご覧ください。



常設展示室

【休館日】月曜日(5月1日は開館)

【開館時間】展示室/9:00～17:00(入室は16:30まで)
閲覧室/9:00～19:00(土・日・祝日は18:00まで)

【観覧料】常設展観覧料でご覧いただけます。
一般330円(260)円/大学生220(170)円
*()内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引料金です。
* 高校生以下の児童生徒・65歳以上の方、障害者手帳をご持参の方及びその介護をされる方は無料です。

* 新型コロナウイルス感染症予防対策として、ご入館の際には検温、手指の消毒のご協力をお願いします。展覧会、関連イベントが変更・中止になる場合があります。当館ホームページで最新情報をご確認ください。

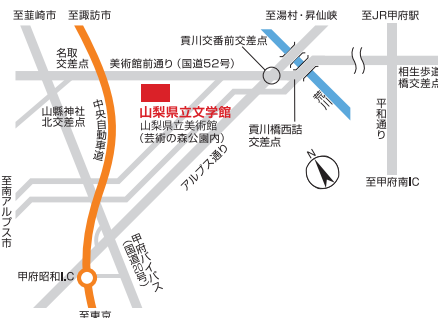
交通のご案内

JR中央本線甲府駅より

- 甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王駅経由数島営業所・大草経由由美崎駅・貴川団地各往きのバスで約15分、「山梨県立美術館」下車。
※ 甲府駅からのバスの時刻表は「山梨交通HP」より調べいただけます。
- タクシーで約15分。

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- 料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て、200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貴川交番前交差点を左折、国道52号を約1km、左側。



そのことばのつづきへ
山梨県立文学館
Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 甲府市貴川1-5-35
TEL.055-235-8080 FAX.055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>



公式SNS

